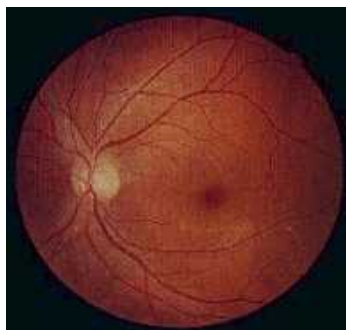


眼底検査

眼底検査は、眼底カメラを用いて、眼球の奥にある網膜や血管、視神経などの状態を調べる検査です。健康診断では散瞳薬を使用しない無散瞳で行うため、撮影後の残像が残りにくく、負担が少ない検査です。

眼底検査では、眼科的な所見の他、高血圧や糖尿病などで起こる眼底の出血や動脈硬化の有無・程度が分かります。眼底の血管の状態から、高血圧や糖尿病などによる動脈硬化の状態を推し量ることができます。これは、眼底が血管を直接見ることができる唯一の場所だからと言えます。また、網膜や、視神経乳頭の状態から、加齢黄斑変性症や網膜色素変性症などの網膜の異常や視神経線維が減少する緑内障を診断するのに、この検査は欠かせません。



このため「要再検査」という判定を受けた方は、症状がなくても、眼科にご相談ください。また「要精密検査」になった方は、眼科を受診して詳しく調べてもらい、高血圧や糖尿病のせいで眼底に異常が現れているようなら、内科で必要な指導や治療を受けてください。

上のような眼底写真から、次のような異常な所見が見つかることがあります。

1. 動脈硬化による異常の例

- 動脈の太さが細くなったり（細動脈狭細）、一定でなくなる（管径変化）
- 動脈と静脈が交差するところで、静脈が動脈に押されてくびれたり、曲がったり

り

上流側でせき止められたりする（交差現象）

- 血管が詰まって出血する（眼底出血）

2. 糖尿病による異常の例

- 動脈に接して、微細な赤い点状の毛細血管瘤がある
- 点状～斑状、あるいは広い範囲の出血がある
- 白斑がある

3. 眼科的な病気による異常の例

- 乳頭の異常な凹み（陥凹）の拡大など、乳頭部の変化がある
- 網膜の裏側にある脈絡膜の血管が、網目のように透けて見える（近視による豹紋様眼底）
- 網脈萎縮、網脈裂孔、ドルーゼ（白っぽい斑点）など、網脈面の異常がある